

## 群構造

### 群の定義

群とは、集合と適切な演算の対である。すなわち集合を  $G$ 、演算を  $\phi$  とすれば、 $(G, \phi)$  であり、演算について次の公理  $\gamma_1, \gamma_2$  を満たせば  $(G, \phi)$  を群という。演算は 2 変数の写像、 $G \times G \rightarrow G$  である。

$$\gamma_1 : \forall x, y, z \in G [\phi(\phi(x, y), z) = \phi(x, \phi(y, z))]$$

$$\gamma_2 : \exists e \in G [\forall g \in G [\phi(g, e) = \phi(e, g) = g] \wedge \forall g \in G, \exists u \in G [\phi(g, u) = \phi(u, g) = e]]$$

$\gamma_1$  は演算の結合性、 $\gamma_2$  は、単位元の存在と逆元の存在性を述べている。今後、単位元は  $e$  と書き、 $x \in G$  の逆元は  $g^{-1}$  と書くことにする。今後毎回  $\phi$  を書くとややこしいので、代わりに括弧を省き中置演算子  $*$  を使うことにする。また、群  $(G, *)$  のことを、ただ単に群  $G$  と書くことがある。その場合、先に述べた適切な演算が  $G$  に入っていると思えば良い。

### とある話題

$(G, *)$  を群とする。ここで、 $c \in G$  を固定して、

$$Gc = \{g * c \mid g \in G\}$$

なる集合を考える。 $G$  は群なので  $Gc$  も群である（表示は違うが同じ演算が自然に入ると思えば良い）。ここで、群  $Gc$  に次のような演算  $\langle -, - \rangle$  を導入する。

$$\langle -, - \rangle : Gc \times Gc \longrightarrow Gc$$

$$\langle x, y \rangle \longmapsto (x * y) * c$$

実は、 $Gc = G$ （集合としても（元の演算を考えれば）群として等しい。）なので、次を考えることと等価である。

$$\langle -, - \rangle : G \times G \longrightarrow G$$

$$\langle x, y \rangle \longmapsto x * y * c$$

この演算が、群の演算の公理  $\gamma_1, \gamma_2$  を満たしているか確認していこう。演算が閉じていることは明らか。はじめに、結合法則がなりたつか見ていこう。

$$\begin{aligned}\langle\langle x, y \rangle z\rangle &= \langle(x * y) * c, z\rangle \\ &= x * y * c * z * c \\ &= \dots\end{aligned}$$

なんだかこのままだと何もできそうにないので、 $c$  を群の中心  $Z(G)$  から取ってこよう。 群の中心とは、 $\{x \in G \mid \forall g[g * x = x * g]\}$  のことである。群の中心は  $G$  の正規部分群となるなど面白い性質がある（確認せよ）。

$$\begin{aligned}\langle\langle x, y \rangle z\rangle &= x * y * c * z * c \\ &= x * y * z * c * c \\ &= x * \langle y, z \rangle * c \\ &= \langle x, \langle y, z \rangle \rangle\end{aligned}$$

無事に新しく導入した演算は結合法則を満たすことがわかった。次に、単位元の存在性を確認しよう。

$$\forall g, \exists e[\langle g, e \rangle = \langle e, g \rangle = g]$$

いま、単位元の候補として  $e' := c^{-1}$  と置こう。任意の  $g$  に対して、

$$\begin{aligned}\langle g, e' \rangle &= \langle g, c^{-1} \rangle \\ &= g * c^{-1} * c = g\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}\langle e', g \rangle &= \langle c^{-1}, g \rangle \\ &= c^{-1} * g * c = g\end{aligned}$$

次に逆元について考察する。

$$\forall g, \exists u[\langle g, u \rangle = \langle u, g \rangle = e' = c^{-1}]$$

$u := g^{-1} * c^{-2}$  とすれば、

$$\begin{aligned}\langle g, u \rangle &= \langle g, g^{-1} * c^{-2} \rangle \\ &= g * g^{-1} * c^{-2} * c \\ &= c^{-1} = e'\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
\langle u, g \rangle &= \langle g^{-1} * c^{-2}, g \rangle \\
&= g^{-1} * c^{-2} * g * c \\
&= c^{-1} = e'
\end{aligned}$$

故に、新たな群の演算  $\langle, \rangle$  は演算の公理  $\gamma_1, \gamma_2$  を満たしているので、 $c \in Z(G)$  なら  $(G, \langle, \rangle)$  は群である。

さて、この群はなんだろうか？